

地域住民への健康意識向上のためのアプローチ法

<体験型イベントを通じて>

岐阜医療科学大学 臨床検査研究部

<要旨>

～現在の日本の人口状況～

我が国の高齢者は**約 3000 万人**（総人口に占める割合は 25.0%）

人口・高齢者割合共に過去最高となった。約 20 年後には 30% を超え、3 人に 1 人が高齢者となることが見込まれている。

そこで岐阜県では、平成 14 年～24 年に「ヘルスプランぎふ 21」という岐阜県健康増進計画を策定し、現在も継続的に健康意識向上のための取り組みがなされている。

～関市の人口状況～

今回、本企画が対象地域とした岐阜医療科学大学の位置する関市は、日本のほぼ中心に位置し、「刃物のまち」として 700 余年の伝統ある街である。県全体に占める総面積の割合も 4.45%（県内 8 位）となっており、人口は約 9 万人、世帯数にしておよそ 3 万 5 千世帯の住民が暮らしている。

関市の人口は平成 19 年から、減少傾向にあり、我が国全体の動向と同じく、0～14 歳の人口は減少し、高齢者人口が増加しており、その割合は、同市内でも地域により大きく異なる。関市中心部では 2 割未満であるのに対し、関市中心部から離れた地区では 4 割以上が高齢者である。

<対象地区：岐阜県関市>



～関市の健康に対する取り組み～

関市は、平成 16 年度から現在に渡り、「身体活動・運動」、「栄養・食生活」、「休養・心の健康」に重点をおいた様々な健康づくり対策を実施している。

しかし、その成果は平成 25 年調査において、関市民の生活習慣病の割合が

県内 42 市町村中 **36 位**、健診受診率は国目標 65% に遠く及ばず **28%**

に留まっており、保健指導が継続困難な割合も 20% と報告されている。

～本企画の活動～

これらの背景を踏まえ、本臨床検査研究部では従来から様々な検査をより身近に体験できる体験型イベント「健康チェック」を開催しているが、より充実した地域住民への健康意識向上につなげるべく、有効なアプローチ法の検討を行った。

＜検討課題＞

従来の健康チェックは、地域住民に気軽に検査体験できるイベントとして好評であり、毎回300名程度の参加がある。しかし、健康意識の改善につながっているかの評価は積極的に行われてこなかった。

また、多数の参加があるにも関わらず、健康に関する新規情報の掲示や、健診受診率の向上に確実に繋がる情報発信が不足していることなど多くの課題があると考えた。

今回、臨床検査研究部による「学生による地域課題解決提案事業」として、関市保健センターや本学教員など多くの協力を得て、以下の4点で新規企画を行い、課題解決に向けて学生間での意見交換後、今後の活動に向けた新たな成果を得た。

- ①関市保健センターとの協力により、関市民を対象にした健診情報の掲示・チラシの配布
- ②新たなイベント開催場所の模索
- ③次回健康チェック予定の明確な掲示
- ④全2回のアンケートを実施

＜健康チェック実施概要＞

年5回程度 土曜・日曜を中心
学生・教職員ともに30名程度
開催場所：関市内 大型ショッピングセンター
保健センター
ふれあいフェスティバルなど
10：00～15：00程度 1日を通して無料
検査項目
・体年齢 ・口腔細菌チェック
・骨密度測定 ・血圧測定
・血管年齢測定 ・脳年齢測定
・肺年齢測定 ・肌チェック

＜考察＞

以上の4点で企画を行い調査したところ、以下のことが考えられた。

- ① 健診事体を受ける機会がない人の割合が男女ともに40歳代であった。
- ② 関市ではインターネットで健診や健康に関する情報が公開されているが、インターネットを見る機会が少ないために、その情報を得られていないこと。
- ③ 一方で広報や地域誌などの紙媒体のものをよく読み、情報を得ていることがわかり、そこから健診等の情報もそこへ掲載できればまた状況が変わるのではないか。
- ④ 健診を受けることへの積極性があまり見られないことから、健診で実際に何を行うのがわからないことによるハードルが高いのではないのか。

＜謝辞＞

本企画において、岐阜医療科学大学臨床検査研究部にご協力いただきました関市保健センターをはじめとする各事業者の皆様、およびご指導賜りました本学教員の方々に心より感謝致します。また、この度、「学生による地域課題解決提案事業」企画に着手する機会と共に、多大なるご支援を賜りました地域連携・産学連携部会の方々に厚く御礼申し上げます。